

第3回 夕張市美術館の今後の在り方検討委員会 意見概要

2012.6.27 (水) 9:30-12:10 ゆうばり文化スポーツセンター他

教育長あいさつ

本日見学した3か所の施設、前回見学した中学校のロビー、また市役所のふるさとギャラリー「あずましい」を中心とした空間、市民が絵画などの作品を目にさせていただく場所はそのどこにあるのかなといった感じがしています。その辺を今後どう形にしていくのかについてまたご意見をいただきたいと思います。本日は主に諮問の3つ目、展示機会・場所の充実等について、資料も用意しておりますのでご議論をよろしくお願いします。

意見交換（概要）

収蔵作品の活用・管理について（主要施設見学の感想）

・今日見た施設はこれまで、展示場所といった視点では見ていなかったため、「絵を壁に掛ける」といった前提で見てみると、意外と飾ることができそうな場所が多く、市民が作品に触れる機会も持てそうだと感じた。短期的にはそういうところでどんどん展示していった触れる機会を設け、進めていける可能性が見えたと思う。

・施設をまわってみて、具体的に展示できる場所はあるのだなと感じた。市民に対して、ここここにいけば作品が見られるといった限定した場所をつくる方が良いと思った。数点よりは1施設にできれば10点くらいずつ、そうすれば一度に50点くらいの作品が飾れそう。

・絵の後ろにベニヤ板を置き、床との接地面は絵がずれないように、はまるレールのような加工をした木などで立てかける展示の仕方であれば、壁がないところでも十分見せられる。それが何を意味するかというと、展示に適さないような場所や限られた壁でも、作品の「適した大きさ」と「どういうものを選定するか」によって、十分可能性があるということ。4・5施設に10点くらいずつ飾り、ロードマップみたいなものを作成し、ストリートギャラリーみたいな考え方が現実的かと思った。ゆうばり小学校の図書室も壁のスペースは小さいが、作品の選定次第で十分活用できる。文スポは天井も高く、大きなものが展示できる。

・ライティングはさほどこだわらなくても自然光が良いと思う。電気が普及する前はヨーロッパのお城なども自然光のみだったはず。当面問題はない。

・ピクチャーレールもあまり完璧を期さなくても、壁にピンを指し落ちないだけの強度があれば大丈夫。

・展示替えは年1回。無理して2回できるか。年1回と決めておけば、年度始めにやるということで手伝いもしやすい。労力も集中してできるのではないかと思う。

・小学校は展示する環境はよいと思うが文スポや公民館と違い、入りづらい気がする。市民もそうだが、市外から来た人などは特に距離的にも学校までは見に行けないのでは。

・小中学校というところは、意外に人が来る場所である。特に小学校の図書室や中学校の多目的ホールは地域の方たちとの会議等でもよく使われる場所である。

・「あずましい」はしばらくは今のスペースのままか。であれば20・30号の小さい作品であれば多く飾れるだろうか。→現状はあのスペースのみ、難は土日開庁できないこと。手を加えればもう少し執務場所との境も作れるし、パネルを増やして展示することもできる。中期的なスパンで見てもらえれば2階の他のスペースとの連動した、常設できるような空間づくりも可能になるのでは。

・お客さん（市民）の導線からみるとその空間は利用しやすいのかもしれない。

・どの会場も絵画作品の展示は想像できるが、書は地味だから難しいのでは。書の作品はやはり雪月花展などの機会にあわせて絵も一緒に隣の会場で展示するのがよいと思った。

・絵があって書が活きることもある。書ばかり、絵ばかりでも飽きられる。やはり展示に関しては専門の人の力も必要。

・展示スペースは思ったよりあったが、施設を見てもったいないと思ったのは、どこも階段しかないこと。絵を展示するにも作業が大変だろう。大作を半恒久的に見てもらおうという考えに立てば、何度も展示替えをする必要がないような、夕張を代表する作品を展示する方向で考えた方がよいのでは。レンガやパネルを張り付けているようなところもあり、場所は良いが、ああいったところは展示する金具等の設置は可能なのか。写真などの場合は窓の上あたりかけるだけでも良いが、絵や書の額となるとどうなのか心配である。

・収蔵作品と言われると、どうも絵が話の中心になってしまうのは致し方ないが、やはり書はこういった大きな施設に常時展示するというよりは、書も大きな部分を占める展覧会である雪月花展などで、その会期にあわせ隣の会場で展示するのが相応しいと感じる。書を習う子どもにもすばらしい作品を見られる。

・いろんなご意見を聞き、方向性も大分見えてきたように感じた。今言われた方法も決して無理な話ではない。確かに書をあちこちに展示するとか絵画と一緒に展示というのはそぐわないのかもしれない。雪月花展等に合わせ書の収蔵作品を展示するのは良いと思う。しかしそのためには、展示パネルなど設備を整えることも必要になってくる。

・年に1・2回の展示替えをするのであれば、一つのテーマ性を持たせることと、それらの展示施設を紹介する絵画マップのようなものを制作する必要もある。

・収蔵作品には炭鉱にまつわるものも多い、テーマとなるとそういったものも含まれてくるだろう。

・今までは、美術館があり、そこへ市民が出向き見るといったものだったが、それが今度は公的な施設に行ったときに見られるという新しい形ができる。例えば「アートのあるまちゆうばり」のようなキャッチコピーをつくる、そんなコンセプトをもってはどうか。今まで以上に市民の目に作品が触れることになるのでは。

・何をすることもPRは重要なので、絵画マップなどもお金をかけずに、宣伝も広報や生涯学習カレンダー「まなび〜ば」などを活用していけるのでは。

・前回、話にて市内のバス会社の2階については、現在美術品の展示には向かない状況であった。また、農業団体の話では滝の上にある施設の2階も現在使用していないので使うのであればお貸しすることはできるが、セキュリティについては問題が残るとの話であった。

- ・今日見た施設では展示場所が2階というところもある。夕張の現状では2階といえども階段しかない施設は大変だと感じる人も多い。
- ・バリアフリーも善し悪しで、ある程度の運動も体には必要だという意見もある。

夕張市の芸術文化振興のための発表・展示機会の提供について

- ・公民館の料金体系についてだが、展示会は他の貸館とは違う。数日単位での使用にならざるを得ないものである。展示会も公民館との共催であればかからないというやり方もこれまで通りあるのであれば、他のサークル等も理解しているのでは。できるだけ無料にしてあげられればその分創作の材料費に充てられるのだが。
- ・パネルや花台も塗り直すだけでも雰囲気が変わる。ちょっとした手をかけることができれば良い会場にもなる。
- ・壁のクロスが剥がれや汚れは直してもらいたい。少しずつではあるが、それだけでも見栄えが良くなる。
- ・作り付けの金具になるとすれば、絵や書の額は結構な重量があるので、あまり安っぽいものでは、また何年もしないでつけ替えや買い替えになるのでは困る。
- ・写真は作品自体もそれほど大きなものはないので、今予定があるわけではないが、展示するにしても「あずましい」くらいで十分である。しかし最近では仲間の作品も「夕張市内の記録」としての作品は多くない。見に来た人が感銘を覚えるような、思い出に残るような作品展でなければうまくないと思っている。古い作品の中には資料となる作品もあるだろう。
- ・歴史を垣間見るという意味では写真は宝物である。今後市民に広く見てもらいたい作品である。
- ・資料によると平成19年度からは社会教育施設の使用料は1.5倍になっている。公民館の使用料金は直営で美術館があったときと比べ約18倍、指定管理期間の料金と比べても約4倍。美術館施設がなくなった今、この料金体系が妥当なもので、市民が創作活動を続ける上でどうなのかと疑問に思う。
- ・最低限かかるものは払うのはもちろんだが、夕張の文化振興のためには、料金体系の見直しも大きな要素であることを答申には盛り込んでいきたい。
- ・例えば、基本料金はそのままにしても、割引率を改定前に戻すことなどはできないか。
- ・公民館の利用にしても会議や集会と展示会とでは期間も使用目的もまったく異なる。それが理解されれば、サークル活動などとの違いも理解してもらえるのではないか。そういった展示の料金体系が独自に設定でき、答申にも盛り込められればスムーズに理解されるのでは。
- ・直営の美術館時代の1日1,050円の利用率も、ゼロと変わらないような金額設定であったが、それでも自己負担という考え方は大切。
- ・展覧会などの大きな発表の場も年に1回のことなので、多少高くても会場使用料は支払うものと思っている。合同展は二団体でお金も出し合うのでできているが、単独ではできない。

- ・美術館直営時代は、文化団体の歴史ある展覧会などは美術館と共催という形で減免してきた経緯もあった。
- ・複数の日数をかけるのは展覧会くらいしかない。後のものは大抵 1 日か半日で終わる物ばかり。展覧会用の料金設定ができればいいのでは。
- ・雪月花展などの展示に合わせ、夕張から出た市外の人をツアーのように貸切バスで夕張に呼び、収蔵作品を見てもらうといったことも、夕張を故郷と思う人には喜ばれるのでは。
- ・「あずましい」で展覧会をやっても、やはり土日が見られないと観客数は増えないようだ。
- ・宣伝は大切。終わった後、展覧会をやっていたのも知らなかったという人も良く聞く話。
- ・歌を詠んだり絵を描く人だけが文化人なわけではなく、観るのも文化人。
- ・「あずましい」に関しては、市外から来る方は別だが、夕張の人口構造をみても特に土日の閉庁が不利とは思わない。もちろん土日も見られるのがベターではあるが、現時点では月曜から金曜までのものだと認識してもらうしかない。
- ・「あずましい」自体もまだ広く認知はされていない。
- ・文スポは日曜もやっているが、後の施設はしょうがない。宣伝を頑張るしかない。
- ・文化を絶やさないう、また創作活動をしている方の意欲を削ぐことのないよう最低限の予算の確保についても答申に盛り込み市に働きかける。

これまでの経過の確認として―

- ・美術館の建物の再建は難しいが美術館機能は残すべき。
- ・常に人がいて、活用されている施設でスペースを探し展示する。
- ・収蔵作品は数点ずつでも常に市民の目に触れる機会をつくる。
- ・中・長期の展望を持ち、まずはできることから始める。
- ・数日間を要する展覧会と、会議等その他の利用形態との料金体系の違いを明確にさせる。
- ・日曜休館、土日の閉庁は多様な宣伝方法でカバーし、施設を最大限生かせる展示方法を。

●第4回検討委員会日程：平成24年7月17日（火）午後3時 市庁舎4階 第3会議室
「答申書（案）について協議」

●第5回検討委員会日程：平成24年7月31日（火）午後3時 市庁舎4階 第2会議室
「答申書提出」（報道リリース）